

金型加工の課題解決に貢献

MOLDINO 社長

鶴巻 二三男氏

この人
2021
に聞く



つるまき・ふみお

1959年生まれ、東
京出身。81年慶
義塾大学卒業後、
菱金属（現三菱マ
テリアル）入社。2012年
執行役員、15年常務
執行役員加工事業
カンパニープレジ
デント、18年ダイ
ヤメット社長、
21年MOLDINO
社長、現在に至る。

切削工具メーカーのMOLDINO（東京都墨田区、03・6890・5101）は金型加工に特化した工具の開発に取り組んでいる。昨年4月にはこれまでブランド名だった「MOLDINO」を社名に改め、これまで以上に金型加工の課題を解決する工具やソリューションの提供に注力する。人手不足や技能伝承、短納期化、加工の高度化などが課題となる中、金型加工現場に対して、どんな工具の開発や提案を行っていくのか。今年4月に就任した鶴巻二三男社長に聞いた。

金型加工現場の現状をどう捉えているか。
各社によって異なると思うが、一つ言えるのはどの現場も加工のどこかに困りごとを抱えているということ。これまでの金型加工は熟練技能者による高度なすり合わせ技術によって成り立っていたが、人手不足や熟練技能者の高齢化などによってそれが難しくなっている。

以前から提唱している「PRODUCTION 5.0」がその一つ。金型加工コストのうち工具費

微細精密、環境負荷低減に力

を解決する工具や提案に力を入れている。具体的には、

当社がそうした課題を占める割合は数%で、これを半分に抑えてもコスト低減効果は薄い。それよりも加工工程全体の

効率化を図った方が効果は大きいという考え方で、工具だけでなく工法も含めた提案を行っている。

が占める割合は数%で、これを半分に抑えてもコスト低減効果は薄い。それよりも加工工程全体の

微細精密だ。今後、5GやEVなどによって微細精密金型の需要は高まるとみている。こうした需要に対応するために小径工具のラインアップを拡充している。また、CBN・PCD工具の開発も検討している。

現在、野洲工場や成田工場にあった設備を昨年再稼働させた魚津工場に移管する計画を進めている。空いたスペースで小径工具向け製造設備などを導入し、新しいことに挑戦していきたい。その他には、環境負荷の低減にも取り組む。これまでと同様、高効率工具や加工改善の提案によって、消費電力の抑制などにつながる。また、超硬リサイクルにも注力する。今後、ユーザーや代理店の方々への周知を強化し、回収率の向上を目指す。目指す姿は、今後も難度の高いハイエンドな金型加工に対して、工具やソリューションを提案し、金型市場で存在感を發揮していきたいと考えている。「金型」と言えば、「MOLDINO」と言われる切削工具メーカーを目指す。